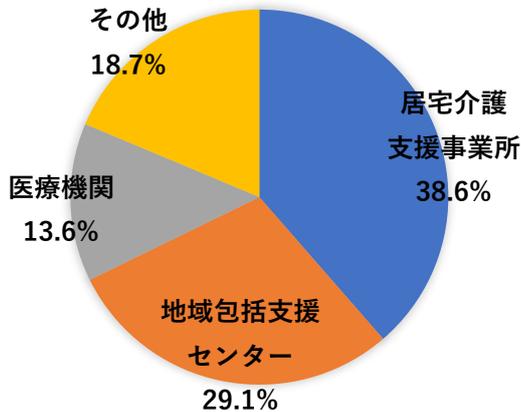
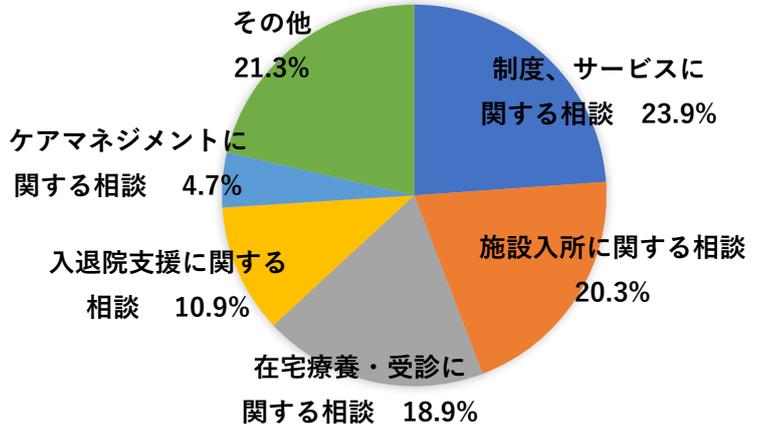


令和元年度 相談状況（令和元年12月31日現在）

相談者



相談分類



相談件数（延件数）は976件で、前年516件と比べ増加しています。相談者は、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの職員が65%以上を占めており、相談内容も「（医療・介護の）制度、サービスに関する相談」をはじめ、「施設入所に関する相談」や「在宅療養・受診に関する相談」など多岐にわたります。

また、つむぎでは必要に応じアウトリーチ（同行訪問、出張相談等）も行っています。

令和元年度 つむぎは、浜松市内の全22地域包括支援センターを訪問しました

浜北区には、北浜、しんぱら、於呂の3つのセンターがあります。浜北区ではサロン活動が活発で、各地域包括支援センターが、サロン運営の支援等に積極的に関わっています。

北浜では、高齢者の居場所づくりや「健康いきいき講座」を開催し、高齢者がいきいきと活躍できる場を提供しています。しんぱらでは、サロンやシニアクラブで講話をしたり、地区社会福祉協議会や地域のサービス事業所と協働して認知症講話や認知症カフェを開催しています。於呂では、協働センター等を利用した地域住民の居場所（カフェ）づくり活動に協力したり、地区社会福祉協議会と協働してボランティア養成講座を行っています。



天竜区は、浜松市の60%超という広い面積を、天竜、北遠中央の2つのセンターと、春野、水窪、佐久間の3支所で担当しています。高齢化率が60%を超えるところもあり、点在する高齢者宅を、日々長距離移動をしながら支援しています。また、2か月に一度、行政、地域包括支援センター、民生委員等、圏域内の多職種が集まる地域連携会を開催し、細かな情報共有をしています。

天竜では、圏域内に同じ法人の病院がさまざまな病棟を持つメリットを生かし、入院・入所の必要な高齢者を適切な医療に繋げています。北遠中央では、独居・高齢者のみの世帯が多く「見守りリスト」を作成し、支援しています。



相談事例 Q & A ～相談内容を紹介します～



Q：「パーキンソン病友の会」の情報を教えてほしい。（ケアマネジャー）

➔ 「浜松市パーキンソン病友の会」の代表者に情報を確認し、その情報を伝えた。

Q：うつ病（引きこもり状態）女性宅へ往診可能な精神科医を教えてほしい。（地域包括支援センター）

➔ 往診可能な精神科医師の情報を調べ、その情報を伝えた。

Q：膀胱がん（ウロストーマ有）の女性、介護保険申請中。介護者入院に伴い、入所先を探している。
（地域包括支援センター）

➔ ウロストーマの対応もあり、介護保険の認定もされていないため、ショートステイは難しい。地域包括ケア病棟に連絡・調整し、その情報を伝えた。

Q：感染性皮膚疾患のため、安静期間が長くなりADLが低下した。特別養護老人ホームの入所まで受け入れ可能なショートステイを探している。（ケアマネジャー）

➔ ADL改善のためリハビリテーションの必要性を助言し、受け入れ可能な老人保健施設・地域包括ケア病棟を調べ、紹介した。

Q：残薬が多い利用者に対して、訪問して内服管理が可能な薬局を探している。（ケアマネジャー）

➔ 浜松市薬剤師会在宅支援ネット（P浜ねっと）で在宅訪問可能な薬局を調べ、状況を確認。申し込み方法も併せて対応可能な薬局の情報を伝えた。

つむぎは、地域の歯科衛生士とのネットワーク作りもお手伝いしています

昨年11月23日、沼津市のプラザヴェルデにて開催された研修会「繰り返す誤嚥性肺炎を防ぎたい」（NPO法人静岡県歯科衛生士会主催）に、コメンテーターとして参加しました。

三島市の口腔ケアネットワーク・在宅医療治療栄養研究会所属の医師の講演後、静岡市清水区のケアマネジャー（歯科衛生士）と共に「誤嚥性肺炎で医療機関へ入院し、地域への退院支援をしていく事例」を通して、参加された歯科衛生士へ退院支援のプロセスや情報を伝えました。

日本人の死因の3位は肺炎（誤嚥性肺炎を含む）です。普段から口腔内の衛生を保つことでオーラルフレイル、サルコペニア、肺炎などの予防が出来ることを改めて見つめなおすよい機会になりました。つむぎの相談業務の中には「在宅において歯科衛生士の介入が必要」と思われる相談もあることから、口腔内のケアについての視点を大事に、今後も歯科衛生士とのつながりを強化していきたいと考えます。



編集後記



「つむぎ通信」も、無事Vol.4を発行することができました。ありがとうございます。
Vol.1～3は、つむぎホームページ→「研修情報」からご覧いただけます。どうぞご覧ください。